

6月定例会

物価高騰から暮らし守れ！申し入れ施策実現 給食費9,10月分半額、水道基本料金4カ月免除

食料品など物価高騰が止まりません。日本共産党江南市議員団は5月24日、拡充されたコロナ臨時交付金3億円を活用して市民生活を支援するよう緊急に市長に要望書を提出しました。

6月定例会最終日に追加提出された補正予算で、

- 学校給食費の値上げ1食20円分を今年度内、保護者負担とせず、市で負担する。
 - 9、10月分の学校給食費を半額に減免する。
 - 水道基本料金を8月検針分から4カ月間、全額免除とする。
 - コロナ禍と物価高騰で厳しい市内事業者（連続3カ月間30%以上売り上げ減少が条件）1事業者あたり10万円の応援金を交付する。
- などの市独自の支援策が実現しました。



市長に、要望書を提出する日本共産党議員団



「江南市にパートナーシップ制度を」 請願が採択されました

6月定例会に市民から提出された「江南市に同性パートナーシップ認定制度 制定を求める」請願書は、日本共産党議員団など4人の議員が紹介議員となり他会派に賛同を働きかけた結果、賛成多数で採択されました。

パートナーシップ認定制度とは、同性どうしの婚姻が法的に認められていない日本で、自治体が独自に「同性カップル」であると認定する証明を

発行し、市営住宅への家族としての入居など様々な行政サービスや社会的な配慮を受けやすくする制度です。

法律上の効力（相続、税金の控除など）は生じませんが、同性カップルに対する一定の社会的承認が得られ、性的少数者の生きづらさや悩みが軽減するとも言われ、全国200以上の自治体がこの制度を制定。急速に広がっています。

「布袋駅東複合公共施設の愛称の市民公募を求める請願」は不採択に

布袋駅東複合公共施設は、市民の税金を45億円余も費やす江南市の南玄関の「顔」。多くの市民に愛着を持ってもらうためにも愛称は市民公募にしてほしいと、「江南あおむしの会」から299筆の署名とともに請願が提出されました。

しかし、日本共産党議員団のみの賛成少数で不採択でした。

市は年額200万円以上を条件に、愛称を命名する企業を募集しています。



企業が命名する愛称は、この位置に表示される予定

動き出した 再配置計画

民間で

図書館取り壊し後に2保育園統合施設 あずま保育園と中央保育園

12月5日をもって休館、来年4月には布袋駅東複合公共施設内に移転する現図書館。これを取り壊した跡地の活用案を市が発表しました。

現図書館に距離的に近く老朽化した、あずま保育園（園児99人）と中央保育園（園児107人）の2園を統合し定員206人程度の大規模な新保育園を、民設民営で整備する計画です。

これに合わせ、市子ども・子育て支援事業計画を変更（8月12日までパブリックコメント実施）。

2026年4月、新保育園の開園予定で進めようとしています。課題、問題点が多い計画です。

200人規模は保育園として大きすぎです。公立保育園がたくさんある事は、江南市の貴重な良さの一つ。公立園を統合・民営化していけば、安心の子育て環境が失われてしまうのではないのでしょうか。（元市保育士）



取壊し予定の現図書館



図書館跡地に統合予定のあずま保育園（上）と中央保育園（右）



老人福祉センターの建て替え計画が明らかに 入浴施設を整備しない方針で良いのか



多世代等交流施設として建て替えとなる予定の老人福祉センター

老朽化が著しい老人福祉センターを、現在の場所で建て替える計画が明らかになりました。日本共産党議員団は、早期建て替えを求めてきましたがようやく実現します。

同時に交通児童遊園、古知野児童館、藤ヶ丘児童館の3施設や国際交流の機能を統合し、老人福祉センター解体後の跡地に移転、複合化。多世代が集い、異文化交流ができる多世代等交流施設とする計画です。

老人福祉センターの解体、新施設建設中は、機能を保健センターへ一時移転させる予定。新施設の供用開始は2025年度の見込みです。

*皆様のご意見を、日本共産党議員団までぜひお寄せください。

高齢者の憩いの場である入浴施設は整備しない方針となっています。多機能をまとめすぎ、駐車場不足が心配されるなど懸念材料も多く、十分な市民参加の議論が必要です。